

2019年6月30日(日)朝10:10～  
6月第5公同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第4、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：百人隊長の信仰告白①(6、7節)

聖書：マタイ 8章5～10、13節

＜口語訳＞

新約聖書11～ 頁

マタイ 8章5～10、13節

＜新共同訳＞

新約聖書13～ 頁

マタイ 8章1～4節

＜新改訳第3版＞

新約聖書13～ 頁

マタイ 8章1～4節＜塚本訳＞

新約聖書86～ 頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き  
によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ **マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇ **マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓**あるいは**説教**と表現される箇所です。
- ◇ **マタイ8:1～4**は、「**御子イエス・キリスト様**」による「**百人隊長のしもべ**」の「**癒し**」の出来事・奇蹟記録です。
  - ⇒「**百人隊長のしもべ**」は、「**百人隊長**」の執りしで、主が「**癒し**」て下さいました。
  - ⇒「**百人隊長のしもべ**」は、異邦人ですから「**汚れ**」の中にいて、ユダヤ人から見れば、神を礼拝する資格な無き者でした。
  - ⇒ですから、「**その信仰告白**」を主から評価されたには、「**百人隊長**」でした。主が、宗教的社会的慣習を越えて、「**中風(脳卒中)の男**」は、「**癒され**」、不自由な生活から解放されました。
  - ⇒「**神の権威**」の恵みを受けたのは、「**百人隊長**」でした(マタイ8:13)。「**百人隊長のしもべ**」は、その**恵みのおこぼれ**に与ったのです。

本論；

◇本日、**マタイ書8章5～10、13節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦςをとめます。

◆**マタイ8章5～10、13節**；使徒**マタイ**は、**神の御子イエス・キリスト様**が「**主の権威ある者・権威を持つ者**」として、「**百人隊長の信仰告白**」を受け入れ、「**百人隊長のしもべを癒し解放して**」下さいました。

◇**5～10、13節**；塚本訳◆**百卒長の下男**

- 「5 カペナウムに帰られると、一人の百卒長がそばに来て願って
- 6 言った、「主よ、うちの下男が中風で家におねていて、ひどく苦しんでおります。……」
- 7 彼に言われる、「(ユダヤ人の)このわたしが、(異教人のあなたの家に)行ってなおすのか。」
- 8 百卒長は答えた、「主よ、わたしはあなたを、うちの屋根の下にお迎えできるような者ではありません。(ここで)ただ一言、言ってください。そうすれば下男は直ります。
- 9 というのは、わたし自身も指揮権の下にある人間であるのに、わたしの下にも兵卒がいて、

これに『行け』と言えば行き、ほかのに『来い』と言えば来、また僕に『これをしろ』と言えば(すぐ)するからです。(ましてあなたのお言葉で、病気が直らないわけではありません。)

10 イエスは聞いて驚き、ついて来た人たちに言われた、「アーメン、わたしは言う、イスラエル人の中でも、こんなにっぱな信仰をもっている者を一人も見ることがない。

13 それからイエスは百卒長に言われた、「お帰り。あなたの信じたとおりに成れ。」するとちょうどその時に、下男は直った。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**5～7節**；「ペナウムに帰られると、一人の百卒長がそばに来て願って(5)言った『主よ、うちの下男が中風で家になていて、ひどく苦しんでおります。……』」、「彼に言われる、『(ユダヤ人の)このわたしが、(異教人のあなたの家に)行ってなおすのか。』」と、『**百人隊長**』が、「**彼のしもべ**」が、「**中風(脳卒中・脳梗塞)**」だからと、現状を報告した時、「**御子イエス・キリスト**」は、『(ユダヤ人の)このわたしが、(異教人のあなたの家に)行って

なおすのか。』と、「ユダヤ人と異邦人の違い」を理由に、「**中風(脳卒中)**」を訪ねることを躊躇された様子が見られます。

⇒今日の一般社会でしたら、明らかに差別発言で、ヘイトスピーチにもなりかねません。

⇒併し、当時のユダヤ社会では、旧約で定められた「**汚れたもの・異邦人**」は、聖なる宮と主に仕えるユダヤ人とは、区別されて、『**異邦人の庭**』という指定された場所での礼拝が赦されていて、差別はされていなかったのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**百人隊長**」を試され、敢えて差別的発言をされたのです。

◇**8～9節**；「百卒長は答えた」、「『主よ、わたしはあなたを、うちの屋根の下にお迎えできるような者ではありません。(ここで)ただ一言、言ってください。そうすれば下男は直りますというのは、わたし自身も**指揮権**の下にある人間であるのに、わたしの下にも兵卒がいて、これに『行け』と言えば行き、ほかのに『来い』と言えば来、また僕に『これをしろ』と言えば(すぐ)するからです。(ましてあなたのお言

葉で、病気が直らないわけはありません。)』、「**御子イエス・キリスト様の区分発言**」を理解し、「**百人隊長の指揮権・権威**」の命令ことばなら、異邦人にも礼拝そのものは赦されていて、「**異邦人の庭**」から出なければ、宮の声を聴けます。まして、主の宮の真の主である「**神の御子イエス・キリスト様のことば**」を聴くのは赦されるはずで、と、「**主の権威**」を「**百人隊長の指揮権・権威**」になぞらえて訴えたのです。

⇒「**使徒マタイ**」が伝えたいことは、『この人(**百人隊長**)にとって「主」であるイエスと、その前に立つ罪ある人間としての、自分の全く無資格な卑しさです。それはイザヤの言葉を借りれば、「わたしは汚れた唇の者。汚れた民の中に住む者。しかもわたしの目は王なる万軍の主を仰ぎ見た」(イザヤ6:5)という畏れです。シモン・ペトロの言葉で言うなら、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深いものなのです」(ルカ5:8)という告白に込められたものです。「主」であるお方の前に立つ小さな、肉なる者として、軍人であるこの人は

この人なりに、舌足らずながら「主よ、あなたの権威は絶対です」と言いたかった』と、**OA師**はおおせです。

◇**10、13節**；「イエスは聞いて驚き、ついて来た人たちに言われた」、『アーメン、わたしは言う、イスラエル人の中でも、こんなにっばな信仰をもっている者を一人も見ることがない』、「それからイエスは百卒長に言われた」、『お帰り。あなたの信じたとおりに成れ』、「するとちょうどその時に、下男は直った」と、「**神の御子イエス・キリスト様**」は、『お帰り。あなたの信じたとおりに成れ』と、権威命令をお与えになるとおもに、『あなたの信じたとりに成れ』と、「**百人隊長の信仰告白**」受け入れて下さったのです。

⇒「するとちょうどその時に、下男は直った」と、**神の癒し**です。その男は、**神に対して生きた存在**となったのです。「**御子イエス・キリスト様**」は、「**癒し主**」です、罪に対して死んだ者であれば、「**中風(脳卒中)**」の下に現実にあったとしても、十字架上の強盗のひとりに、「今日、あなたはパラダイスにいる」と、現実**は**犯罪者

ですが、死さえ、「**御子イエス・キリスト様**」と引き離さない、「**天の国・パラダイス**」に生かされているのです。

⇒「**百人隊長**」も、「**百人隊長のしもべ**」も、立場は違いますが、汚れた異邦人と言われる汚れ以上に、「心の汚れ、神の前に弁解できない無資格者」です。

⇒**OA師**は、「汚れた者、無資格者・・・の口から、本当の信仰のことば(信仰告白)が出る時にイエスはお喜びになる」と仰せです。

⇒「**らい病ツアラートの者**」も、「**百人隊長のしもべ・中風(脳卒中)の者**」も、「**汚れた者**」、「**神の前に無資格な者**」でしたが、**神の恵み**を受けて、社会的にも、靈的にも、「**清め**」られ、「**癒され**」て、罪に死に、**神**に対して生きた者とされたのです。



## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇**マタイ8:1～4**は、「**御子イエス・キリスト様**」による「**百人隊長のしもべ**」の「**癒し**」の出来事・奇蹟記録です。
- ⇒「**百人隊長のしもべ**」は、「**百人隊長**」の執りしで、主が「**癒し**」て下さいました。
- ⇒「**百人隊長のしもべ**」は、異邦人ですから「**汚れ**」の中にいて、ユダヤ人から見れば、神を礼拝する資格な無き者でした。
- ⇒ですから、「**その信仰告白**」を主から評価されたには、「**百人隊長**」でした。主が、宗教的社会的慣習を越えて、「**中風(脳卒中)の男**」は、「**癒され**」、不自由な生活から解放されました。
- ⇒「**神の権威**」の恵みを受けたのは、「**百人隊長**」でした(マタイ8:13)。「**百人隊長のしもべ**」は、その**恵みのおこぼれ**に与ったのです。

⇒「らい病ツアラーの者」も、「中風(脳卒中)の者」も、**神の恵み**を受けて、**神の前に汚れた者**神の前に**罪深く天の国に対して無資格な者**が、**罪赦**されて、**神を礼拝する者**にされているのを見れるのです。

⇒「アーメン、わたしは言う、イスラエル人の中でも、こんなりっぱな信仰をもっている者を一人も見ることがない」という信仰を与えられた「**百人隊長**」によって、「**百人隊長のしもべ**」は、「**天の国**」に入れられる恵みに与ったのです。